

## 『パウロの願い③』

'22/07/10

聖書箇所：エペソ人への手紙 3 章 17-21 節（新約 p.376-）

ぜひ、皆さん、考えてみてください。皆さんは、救われてから何年になります？その時と今を比べてみて…、クリスチャンとして成長されたと思われませんか？「成長した」と思われた方も…、「そんなに成長していない」と思われた方も、一体、何をもちてどのように判断されました？私たちの霊的成長…、つまり、クリスチャンとしての成長とは、一体、何を基準に考えれば良いのでしょうか？

### 命題：パウロが父なる神に祈っていた内容とは？

実は、今日のみことばの学びで、そういったクリスチャンの成長を量る物差しが1つ出てくると思います。少し前から、私たちは、パウロが父なる神様に祈っている内容について、一緒に学んでいます。…どうぞ、聖書をお持ちでしたら、エペソ 3:14-21 をお開きください。

### I・救われたクリスチャンが、益々、成長していくように！（14-16 節）

まずは簡単に復習だけさせてください…。パウロが父なる神に願った第1番目のものは、神様が私たちに与えられた新しい性質…、“内なる人”が神様によって強くされていきますように…、つまりは、救われたクリスチャンが、益々、霊的な意味において“成長”していきますように！ということでした…。14-16 節をお読みいたします。

14 こういうわけで、私はひざをかがめて、

15 天上と地上で家族と呼ばれるすべてのものの名の元である父の前に祈ります。

16 どうか父が、その栄光の豊かさに従い、御霊により、力をもって、あなたがたの内なる人を強くしてくださいように。

霊的に成長したクリスチャンは、神の前にへりくだろうとします。神様こそが唯一の主権者で…、神様にこそすべてのことにおける最終決定権があって…、この神様がなされることこそが最善である！いうことをよく承知しているからです。だから、成熟したクリスチャンは、そんな神様の前にへりくだって、自然とひざをかがめるようになっていくし…、自分のすべてを導いてくださっている神様に、感謝を捧げていこうとするのです。

私たちクリスチャンがそのように成長させられ…、変わっていくことが、パウロの願いでありました…。何故なら、そういったような霊的な成長こそが、私たちの信仰生活における様々な誘惑や問題に対して、本当の解決や勝利を与えてくれるからです。そういったような成長を経験していたから、この手紙を書いたパウロだけでなく、あのシモン・ペテロも、またヨハネたちも、様々な問題に当たっても負けることなく…、また、恐れることなく、キリストの証しを大胆になしていくことができたのです…。

### II・キリストがクリスチャンの心を支配して下さるように！（17a 節）

そうして次に、パウロが願ったことは、私たちクリスチャンの心が、益々、私たちの主であるキリストによって“支配”されていきますように！ということでした。どうぞ、17 節の前半をご覧ください。

17 こうしてキリストが、あなたがたの信仰によって、あなたがたの心のうちに住んでいてくださいますように。

…

これは、先程の願いと別の願いであるかも知れませんが、全く別々に起こることではありません。これらは両方とも、イエス様を信じ救われた時に起こる…、神様の御業なのです。イエス様を信じ受け入れた私たちには、イエス様の人格とも言えるべき、キリストの心が与えられました。だから、パウロは、ガラテヤ 2:20 でもこう教えるのです。『私はキリストとともに十字架につけられました。もはや私が生きているのではなく、キリストが私のうちに生きておられるのです。いま私が肉にあって生きているのは、私を愛し私のためにご自身をお捨てになった神の御子を信じる信仰によっているのです。』⇒このように、クリスチャンとは、キリストと継ぎ合わされ…、キリストと一体とされた者たちです。だから、イエス様を信じて救われた私たちは、キリストと一体とされたということ、あのバプテスマという儀式でもって、この世に証ししようとするわけなのです。

### III・クリスチャンが、愛において成長していくこと！（17b-21 節）

非常に簡単ではありますが、そこまでが、ここ2回に渡って学んだ内容でした…。今日は、パウロの願いの第3番目を見ていきたいと思います。それは、救われたクリスチャンたちが、益々、愛という分野において成長していきますように！というものでした。どうぞ、17 節の後半からご覧ください。

17b …また、愛に根ざし、愛に基礎を置いているあなたがたが、

18 すべての聖徒とともに、その広さ、長さ、高さ、深さがどれほどであるかを理解する力を持つようになり、

19 人知をはるかに越えたキリストの愛を知ることができるよう。こうして、神ご自身の満ち満ちたさまにまで、あなたがたが満たされますように。

20 どうか、私たちのうちに働く力によって、私たちの願うところ、思うところのすべてを越えて豊かに施すことのできる方に、

21 教会により、またキリスト・イエスにより、栄光が、世々にわたって、とこしえまでありますように。アーメン。

#### ①クリスチャンの特徴… 愛！

ここ17 節の後半で、パウロは、この手紙の受取人である、小アジアのクリスチャンたちのことを、こう表現しています、『愛に根ざし、愛に基礎を置いているあなたがた…』と。…確かにパウロは、かつて小アジアでゆうに2年以上は滞在していましたから（使徒 19:10）、彼らのことをよく知っていて、こんな風に表現できたのだと言えるかも知れませんが…。実際、このエペソ 1:15 には、『こういうわけで、私は主イエスに対するあなたがたの信仰と、すべての聖徒に対する愛とを聞いて（いる）』とありました。でも、それだけではありません。パウロが、こうもはっきりと断言できたのは、しっかりとした根拠があったからなのです。そのことについて…、改めて詳しく説明する必要はあまり無いのかも知れません。何故なら、ここにおられるすべての方が、もう既にその理由を知っておられるからです。

聖書のみことばははっきりと教えます、『私たちクリスチャンの1番の特徴は愛である！』って…。でしょ？イエス様を信じ、救われた私たちには、神様の愛が与えられたのです。どうぞ、Iヨハネ 3:8-15 をご覧ください、『8 罪を犯している者は、悪魔から出た者です。悪魔は初めから罪を犯しているからです。神の子が現れたのは、悪魔のしわざを打ちこわすためです。9 だれでも神から生まれた者は、罪を犯しません。なぜなら、神の種がその人のうちにとどまっているからです。その人は神から生まれたので、罪を犯すことができないのです。10 そのことによって、神の子どもと悪魔の子どもの区別がはっきりします。義を行わない者はだれも、神から出た者ではありません。兄弟を愛さない者もそうです。11 互いに愛し合うべきであるということは、あなたがたが初めから聞いている教えです。12 カインのようであってははいけません。彼は悪い者から出た者で、兄弟を殺しました。なぜ兄弟を殺したのでしょうか。自分の行いは悪く、兄弟の行いは

正しかったからです。13 兄弟たち。世があなたがたを憎んでも、驚いてはいけません。14 私たちは、自分が死からいのちに移ったことを知っています。それは、兄弟を愛しているからです。愛さない者は、死のうちにとどまっているのです。15 兄弟を憎む者はみな、人殺しです。いうまでもなく、だれでも人を殺す者のうちに、永遠のいのちがとどまっていることはないのです。』

⇒このように、みことばははっきりと教えます。もし、私やあなたが救われているのなら、平気で、罪を犯し続けることはできないはずだ…。また、それだけではありません。神様によって新しく生まれた者は、間違いなく、神の愛が留まっているが故に、主にある『兄弟』、つまりクリスチャンを愛すると言うのです。また、Iヨハネ 4:7-8 もご覧ください。『7 愛する者たち。私たちは、互いに愛し合ひましょう。愛は神から出ているのです。愛のある者はみな神から生まれ、神を知っています。8 愛のない者に、神はわかりません。なぜなら神は愛だからです。』⇒ここでもはっきりと教えられているように、イエス様を信じて救われた者には間違いなく、神の愛があります。…神を愛する愛と、主にある兄弟姉妹であるクリスチャンを愛する愛です。

よく言われるように、ギリシャ語には“愛”を表現する言葉が3種類ほどあります。その内の1つは、男女間の愛を表わす言葉で、これは聖書には使われていません。聖書に使われている言葉として…、1つは、「φιλία」(フィリア)で、これは友情などを表わしたりする場合に使われます。そして、もう1つの、「ἀγάπη」(アガペー)の方は、神の愛などを表わす場合に使われており、自分よりも相手を優先し…、そのために犠牲を払うような自己犠牲的な愛を指したりします。また、それだけでなく、先程のフィリアが、自然発生的な友情や人情を表わすのに対して、アガペーの方は、積極的な意志をもって、愛そうとするような愛を指すのです。ですから、ある人は、このアガペーの愛を“無条件の愛”とも表現します。確かに、そうとも言えるでしょう。皆さんもお気付きのように…、当然、先程、引用した箇所にあった『愛』という言葉はすべて、アガペーの方の愛が使われているのです。

このように、神様によって救われた者は、神とクリスチャンを愛そうとします。アガペーの愛がそうであるように、「自然発生的に愛情が湧き上がってくるから、愛する。しかし、愛情が湧き上がらない場合は愛さない…」というわけではありません。積極的な意志をもって、愛そうとするのです。なぜなら、イエス・キリストが何よりも愛のお方であられたからです。…少し前に学んだように、イエス様を信じて救われたクリスチャンは、キリストと継ぎ合わされ…、一体とされ…、その方の内にはキリストの人格と、聖霊なる神様が住んでくださっているのです！そのイエス様は、本当の愛を…、アガペーの愛というものを私たちに与えてくださいました。私たちのために、何と、ご自分のいのちをもお捨てになってくださって…、あの十字架上で、自分を十字架に追いやった者たちのために祈ることによって…。

また、イエス様は罪を憎まれました…。だから、救われた私やあなたも罪を憎むようになったのです！それだけではありません。イエス・キリストはただの1度も罪を犯したことの無い、全く清いお方であられました。だから、救われた者は皆、清くありたいと願うのです！この少し前の、Iヨハネ 3:3 には、『キリストに対するこの望みをいだく者はみな、キリストが清くあられるように、自分を清くします。』と教えられています。

『キリストに対するこの望み』とは、この直前で語られているように…、イエス様とお会いできるという希望のことです。その時、私たちクリスチャンは、キリストのように…、罪の無い、栄光のからだに変えられるのです。…確かに、私たちがこの地上で生きている間は罪があります。だからこそ、救われたクリスチャンは、そのことを待ち望んで…、地上で生かされている間も清くあろうとしますのです！…このように、神様によって救われた者は、神様の御性質を受け継いでいるのです。確かに、完全に神様と同じようになることなど有り得ませんが、神を愛するが故に、神に倣って、神様に近づこうとしますのです。皆さんもそうでしょ？

どうぞ、今日のみことばである、エペソ 3:17 に戻ってください。ここでパウロは、救われたクリスチャンたちのことを説明するに当たって、『愛に根ざし、愛に基礎を置いているあなたがた…』と説明してくれていました。愛については今、お話しさせていただきましたが、今度はその表現に注目してみてください。『愛に根ざし、愛に基礎を置いている…』とあります。この、「根ざす」という言葉は本来、植物に対して使われる言葉です。また、「基礎を置く」という表現も、本来は建物をイメージしています。その…、共通しているアイデアは「成長」です。まず、「根ざす」というのは簡単ですよ。植物がしっかりと根をはって、そして、段々と大きく成長していくのです。「基礎を置く」という表現も…、これは単なる建物を指しているのではなく、実は、救われたクリスチャンたちの集合体である教会をイメージしています。

ですから、少し前の、エペソ 2:21-22 をご覧くださいと、『21 この方において、組み合わされた建物の全体が成長し、主にある聖なる宮となるのであり、22 このキリストにおいて、あなたがたともに建てられ、御霊によって神の御住まいとなるのです。』とある通りです。以前に学んだことですが、ここで言われている、『組み合わされた建物…、主にある聖なる宮…、御霊によって神の御住まいとなる…』とは、すべて教会のことでしたでしょ？だから、今日のみことばである、エペソ 3:18 で、『すべての聖徒とともに…』とあるのです。

つまり、こういうことなのです。パウロはここで、救われたクリスチャンたちが、益々、愛において成長していくために、有益なもの…、助けとなるものについて教えてくれているのです。1つは、御霊なる神様です。それについては、少し前の16節に書かれておりましたし、6/19の礼拝でも学びました。もう1つは教会です。教会において、私たちは益々、成長させられていくのです。当然、教会というのは建物のことではありません。救われた者同士の集まりのことであり、お互いの交わりのことです。

皆さん、経験ありません？…教会を休んでいる時って、何となく、霊的にダウンしたと言いか…、何だか信仰が弱まってしまったと感じるようなことが…。逆に、教会を休んでいる時に、霊的に大きく成長させられたことってありました？もちろん、こういったことは絶対に無いとは言いきれません。神様は、私たちが教会を休んでいる時にも、いろんなことを経験させてくださったり、教えてくださったりすることがあるからです。

しかし、エペソ 2:21 に、「この方(=イエス・キリスト)において、組み合わされた建物を構成しているクリスチャンたちが一緒に成長していき…、主にある聖なる宮となる…」と教えられていることや、エペソ 4:11-13 で、『11 こうして、キリストご自身が、ある人を使徒、ある人を預言者、ある人を伝道者、ある人を牧師また教師として、お立てになったのです。12 それは、聖徒たちを整えて奉仕の働きをさせ、キリストのからだを建て上げるためであり、13 ついに、私たちがみな、信仰の一致と神の御子に関する知識の一致とに達し、完全におとなになって、キリストの満ち満ちた身たけにまで達するためです。』⇒ここでも、クリスチャンたちの成長のために、イエス様が教師をお立てになったということが教えられていますけれども、じゃあ、その教師たちが教えてくれるというのは、学校でのことを言っているのでしょうか？それとも、病院やどこかのことでしょか？…違いますでしょ！その教師たちが働いてくれるのは、主に教会でのことじゃないですか！そうでしょ！

そして、どうぞ、エペソ 4:16 もご覧ください。そこでは、『キリストによって、からだ全体は、一つ一つの部分はその力量にふさわしく働く力により、また、備えられたあらゆる結び目によって、しっかりと組み合わされ、結び合わされ、成長して、愛のうちに建てられるのです。』とありますでしょ？ここで言われている「一つ一つの部分」って何でしょう？教会にいるクリスチャンたちのことでしょ？そのクリスチャンたちが、与えられた賜物を用いて、働いていくことによって、教会というのは、ますます強固になっていって、成長させられていく！というわけなのです。…ですから、私たちの霊的な成長のためには、教会に通うことや、クリスチャン同士の交わりや、与えられた賜物を用いて奉仕をしていくことが必要なのです！

確かに、聖書のみことばは、「私たちが成長させてくださるのは神様だ」ということを教えてくれています。…と同時に、みことばはこうも教えてはいると思いません。「成長させてくださるのは神だから、あなたが教会に行かないで、家でしっかりとみことばを学んでさえいれば、それであなたの信仰は成長させられる…」そうじゃないですよね？でも、だからと言って、私たちクリスチャンが、ただ教会に来ることだけ…、つまり、教会に来ると言う“行為によって”、私たちの信仰が成長するとは教えていません！

神様は、私たちが成長させる時に、教会での学びや、教会での奉仕、教会での交わりなどを用いてくださるのです。でも、皆さん、果たして、私たちは、教会に来て、クリスチャンの皆さんとただ挨拶することだけで、私たちの霊的な部分が成長させられていくのでしょうか？…いいえ！もちろん、私たちは教会に来るだけでなく、教会の中で、一緒に、いろんな奉仕をしたり、その中で支え合ったり、助け合ったり、励まし合ったり、祈り合ったりして、成長させられていくのです。…そうじゃありません？

また、神様は、私たちのことを、教会の中だけではなくて…、例えば、家族関係を通して、あるいは、職場での環境を通して、またある時には、様々な困難や病などを通して、私たちが成長させてくださいます。

でも、私たちが覚えるべき、私たちの霊的な成長…、クリスチャンとしての成長度は、愛です。私たちの愛がどのように大きくなったか？神への愛…、そして、クリスチャンへの愛、自分が愛したくない人への愛がどのように増していったか…、そして、それらを、どのように実践しようとするようになったかで、私たちの霊的な成長の度合いをある程度量ることができるのです！

## ②クリスチャンの最高の模範＝イエス・キリストの愛！

私たちの救い主であり、同時に、私たちの模範でもあられるイエス様は、もちろん、そういった愛という分野においても完全であり、最高の見本です。今日のみことばの、エペソ 3:18-19 で、『18 …その広さ、長さ、高さ、深さがどれほどであるかを理解する力を持つようになり、19 人知をはるかに越えたキリストの愛を知ることができますように。こうして、神ご自身の満ち満ちたさまにまで、あなたがたが満たされますように。』とあります。ここで、『キリストの愛』を説明する言葉として、『広さ、長さ、高さ、深さ』というような、4つの物差しが挙げられています。私たちは、こういった点においても、このキリストを私たちクリスチャンの最高の模範として、聖霊なる神様の助けを頂きつつ、キリストの愛を実践していくことができるのです。

①まず、広さということですが、これまでに私たちが学んできたように、神様から特別に選ばれたはずのイスラエルの民たちは、神様の愛が及ぶ範囲をユダヤ人だけに限定していましたでしょ…。しかし、神様のみこころはそうではありませんでした。神様のみこころは、ユダヤ人だけでなく、異邦人でさえも、神様の愛と憐れみによって救われる、というものであったのです。皆さんの愛は、限定されていないのでしょうか？家族だけ…、仲の良い人だけ…。自分に良いことをしてくれる人だけではないのでしょうか？

②また、その長さにおいてはどうでしょうか？私たち人間の愛は期間限定です。つまりは、いつかはそのブームが終わってしまうのです。その人が変わってしまったら…、自分の中で心変わりがあるかも知れませんが、しかし、神様の愛は長さ…、つまり、期間においても永遠で、いつまでも続いて…、終わると言うことが無いのです。私たちも、愛を実践すべき時間を限定してしまっていないのでしょうか？我慢の限界を作ってしまったら…、ある時に、弟子のペテロはイエス様に尋ねました。『主よ。兄弟が私に対して罪を犯したばあい、何度まで赦すべきでしょうか。七度まででしょうか。』(マタイ 18:21)…すると、イエス様は、何とおっしゃいましたか？『七度まで、などとはわたしは言いません。七度を七十倍するまでと言います。』(マタイ 18:22)⇒つまり、「あなたの中で、勝手に限界を作るな！」と言うのです。…私たちも、愛を実践する期間、つまり、長さについて考えないといけませんよね…。

③次に、高さですが、イエス様の愛は、罪に染まってしまっていて…、本来ならば、永遠の地獄に下る

べき存在であった私たちが高めてくださって、神様のおられる天にまで、最高の高さにまで引き上げてくださるようなものです。私たちの愛は…、また、私たちの言動は、その人たちを高めるようなものでしょうか？それとも、その人たちをおとしめ…、裁くようなものでしょうか？ローマ 12:14 には、こうあります、『あなたがたを迫害する者を祝福しなさい。祝福すべきであって、のろつてはいけません。』つて…。

④最後、深さにおいて…、イエス様は、私たちがそんな罪から救うために、あの天から下って、私たちのために、人間となってくださただけでなく、人間の中でも最高の辱めをお受けになってくださいました。最高の苦しみと味わうと言われる、あの十字架に自ら進んで向かっていってくださって…、「木につるされた者は呪われた者である」と聖書にある(申命記 21:23; ガラテヤ 3:13)ように…、何と、自ら呪われた者となってくださったのです。私たちは、人を愛するという行為のために、どのような犠牲を払っているのでしょうか？イエス様の愛とは、そのように広く…、長く…、高く…、そして、深いものであるのです。

どうぞ、今度は 19 節をご覧ください、『人知をはるかに越えたキリストの愛を知ることができますように。…』とありますが、ここで言われている、ある種の矛盾に皆さんは気付いてくださいますか？…キリストの愛というものが、人知をはるかに越えたものであると言うのに、パウロは、それを教会の皆知ることができることを願っているのです。…そのように、私たち人間が、このキリストの愛の素晴らしさを完全に知ることは不可能です。だからね、私たちが神の愛を実践しようとする程…、神様の愛の素晴らしさを思い知らされませんか？…例えば、皆さんは、所謂…、良い行ないや憐れみ・奉仕などをなされた時に、「ああ、私も大分、イエス様の愛に近づけられた…。もう少ししたら、私もイエス様の極みにまで達することができるかも知れない…」なんて、思われますか？思わないでしょ？

逆に、私たちが神の愛を実践しようとする程、その大変さに気付かされるはずですが、自分を犠牲にすることが私たち人間にとってどれ程大変か…、自分以上に相手を優先し、相手のことを無条件に愛するというのが、如何に難しいことであるか…、自分に対して、攻撃したり、自分を憎んでいる相手に愛することが如何に困難なことであるかを、身をもって体験するはずですが。…でも、そうやって、私たちは、益々、イエス様のご愛に…、その偉大さに気付かされて…、成長させられていくのではないのでしょうか？

だから今日、私たちが最初に学んだように、私たちにある程度の愛がないと…、つまり、信仰が無いと、私たちは、神様の愛というものが如何に素晴らしいものであるか、ということを実際の意味で理解し、成長していくことができないのです。まさしく、先程見た 1ヨハネ 4:8に、『愛のない者に、神はわかりません。なぜなら神は愛だからです。』とある通りです。

どうぞ、今度は、エペソ 3:19 後半をご覧ください、『…こうして、神ご自身の満ち満ちたさまにまで、あなたがたが満たされますように。』とあります。ここで、『満たされますように』と訳されてあるギリシア語の単語(πληρωθή)は、「いっぱいにする、充填する…」というような意味の言葉です。つまりは、私たちの中に、キリストの愛が満ち溢れ、何を語っても、何をしても、キリストの愛が溢れ出てくるような…、そんな人物になっていきなさい！とみことばは教えるのです。

イエス様はある意味において、教師でした…。ですから、イエス様は、大勢の人たちに向かって、説教されることもありましたし…、その知恵でもって、ある時は、パリサイ人や律法学者を言い負かされました…。また、ある時は、大胆にもエルサレムの神殿で、商売人々を追いついて、不正な行為をしていた両替商や鳩を売る者たちの腰掛けを倒したりなさいました。だから、つい、私たちも、そんな風に思ってしまうかも知れませんが、メッセージを語れたり、また、上手に教えたりできることが霊的な成長なのではないということです！人を説き伏せたり、うまくやり込めたりできることが成熟したクリスチャンの姿なのではありません。大胆な行動をとって…、ある時には、力づくで話を進める人が、霊的なクリスチャンなのではありません。

だって、ヤコブ 3:1 には、『…多くの者が教師になつてはいけません。…』とあるじゃないですか！だから、皆が皆…、教師を目指す必要は無いのです！神様は、それぞれに必要な賜物…、ちょうど良い賜物を与えてくださっているのです！教える人であっても…、仕える人であっても、捧げる人であっても、励ます人であっても…、皆、その与えられた賜物を精一杯用いて、神様と人々に仕えていけば良いのです！…ですから、成熟したクリスチャンとは、何よりも大きな愛を持っており…、そういった愛を実践し…、そういった愛の故に、いろんな人々から模範とされている人たちのことなのです。つまり、神様の与えてくださる、霊的な賜物と、霊的な成熟とは別物だということです。

### ③究極的な目標＝神の 栄光 が現わされること！

どうぞ、最後に、エペソ 3:20-21 をご覧ください。『20 どうか、私たちのうちに働く力によって、私たちの願うところ、思うところのすべてを越えて豊かに施すことのできる方に、21 教会により、またキリスト・イエスにより、栄光が、世々にわたって、とこしえまでありますように。アーメン。』⇒ここに来て、パウロが神様に対して、どのような思いを持っていたのか、また、どのような思いをもって生きていたのかということが分かります。

まず、パウロは常に、神様を一番に信頼していました。だからこそ、神様のことを、『私たちの願うところ、思うところのすべてを越えて豊かに施すことのできる方』と表現できたのです。…パウロからすれば、「自分の願うことや思うこと以上に、神様のなされることの方がはるかに素晴らしい！」と言うのです。…と言うのも、真の神様とは全知全能であり、また、愛と恵みとに満ち溢れた御方でもあられるからです…。そうでしょ？

つい先週の礼拝で、私たちは、預言者サムエルを通してなされた主の御業について学びました。預言者サムエルはベツレヘムまで行った時、そこでエッセイの子どもたちを見て、最初は、その長男エリアブを見て、「彼こそ主の選ばれた次の王に違いない！」と確信しました。…しかし、神様の御計画は、そうではなくて、末っ子のダビデこそが、次の王になるべき人物だったのです。そうして、あのダビデが、巨人ゴリアテを倒し、イスラエルは神様の祝福を受けて、ますます、大きくなっていったわけです。

### <励ましの言葉>

このように、神様は、愛においても…、また、知恵においても…、そして、聖さや正しさにおいても、完全なる御方です。…こんな時、自分の表現力の乏しさがイヤになります。どう言えば良いのか分かりませんが、神様は、完全なことしか御出来にならないのです！その逆が、私であり、皆さんもです！私たちは、すぐに言います、「もっと、こうだったら良いのに。これがこうなれば良いのに…。」なんと、私たち人間は無責任であり、愚かなのでしょうか？…自分の願った通りのことが起こった後の結果をあまり深く考えないし、その先に起こることを考えることもできないのが私たちなのです…。

このように、私たち人間はいつも間違えます。私たち人間には、一寸先のことも分からないし、何が最善なのかを考えることも、見極めることもできないのです。そうでしょ？…だから、私たちがすべきことは、何が自分にとって最善かどうかを考えるのではなくて…、私たちが愛し、最善をなしてくださっている神様のみこととみことばに従っていくことじゃありません？

2週間前、メッセージの冒頭で話しましたでしょ？…「クリスチャンとは、神様によって、洗脳されるようなことを、自ら、望んでいるのか？」って…。⇒確かに、ある意味においてはそうです。…と言いますのは、間違いなく、私たちの思い通りにいくことよりも、神様のみことばがなされることの方がはるかに素晴らしいからです。そうでしょ！

大切なのは、私たちではなくて、神様のみことばがなされることです！そうじゃありません？だから、今日のみことばの最後、21 節のみことばも、『教会により、またキリスト・イエスにより、栄光が、世々にわたって、とこしえまでありますように。アーメン。』と教えるのです。…まず、イエス様によって、神の栄光が現わされた

と言うのは、もう説明は必要ないでしょう。でも、このみことばでは、原語のギリシヤ語を見ても、そのイエス様と教会とが、並列に並べられてあります。…つまり、あのイエス様が、当時、神様の栄光を現わされたように、今の時代にあつては、教会がかつてのイエス様のように、神の栄光を現わしていくのです！…実に、そういったことを、パウロはここで願っているのです。だって、教会とは、「生けるキリストのからだ」であるからです。今の時代にあつて、そのキリストのからだを構成しているのは、救われたクリスチャンである皆さんお一人お一人なのです。

この神様以外に、栄光を受けるべき御方はいらっしゃいません。この神様以外に、私たちが礼拝を捧げ、また、神として誉め称えるべき存在もありません。どうか、この神様のみことばだけがなされ…、神様の最善がなされることを祈っていきましょう。…と言いますのも、それこそが私たちにとつても最善であり、最高の祝福につながる道なのですから…。最後に、お祈りをもって、今日のメッセージを終わらせていただきます。